

# 日医FAX ニュース



日医FAXニュース  
編集・発行：日本医師会(03-3946-2121)

## ■ 高額療養費の負担増、全体を見合わせ

— 石破首相「秋までに検討」 —

石破茂首相は3月7日、懸念の声が相次いでいた高額療養費制度の負担増について、いったん凍結する考えを示した。患者団体との面会后、「今年8月に予定されている定率改定を含めて、見直し全体について実施を見合わせると決断した」と表明した。

今秋までに改めて方針を検討し、決定する。2度の方針転換を経て、全面見合わせに至った。

石破首相は、受診抑制への懸念、検討プロセスの不備を患者団体から指摘されていたと説明。「政府として重く受け止めねばならない。患者の皆さまにご不安を与えたまま、見直しを実施することは望ましいことではない」と語った。

国会では、制度見直しを前提とした2025年度予算の修正案が衆院を通過したばかりだ。石破首相は「大変申し訳ないことだと思っているが、引き続き予算の年度内成立に向けて努力していく」と強調した。「関係している皆さま方には、これが極めて厳しい

決断であるということをご理解いただきたい」とした。

石破首相は官邸で患者団体と面会。署名やアンケートに寄せられた患者らの声を受け取った。福岡資麿厚生労働相は同日、保険者や経済界の代表者から意見を聞いた。制度見直しに反対する立場、積極的な立場の双方の声を聞き、政府として方針を決めた形だ。野党だけでなく、与党からも、制度見直しへの懸念が出ていたことも響いた。

## ●患者団体「秋まで」の検討には懸念

患者団体は首相との面会后、厚生労働省内で会見した。政府の決定を歓迎する一方、今秋までに検討するとの方針に懸念も示した。

全国がん患者団体連合会(全がん連)の天野慎介理事長は「首相の決断を受け止めて感謝したい」と評価した。ただ、秋までの検討プロセスに言及がなかったと指摘。「同様のプロセスで同様の引き上げ策が出てくることを懸念している」と述べた。議員連盟「高額療養費制度と社会保障を考える会」(仮称)の議論を反映することや、検討プロセスへの患者団体の参画を求めた。

参院予算委員会に参考人として出席した全がん連の轟浩美理事は、今秋までは「非常に短い期間」だとし、「この期間での審議が本当に丁寧なものなのか、戸惑っている」と話した。

日本難病・疾病団体協議会の辻邦夫常務理事は「予算がすでに参院に回っているこの時期に決断していただいたことは評価したい」と語った。患者団体だけでなく、学会などからも見直し反対の声が上がったことに言及。「(プロセスの)どこに原因があって、どう

いうふうに丁寧なプロセスを進めればいいの  
かを考えていただき、拙速な結論を出さない  
よう期待したい」と述べた。

【メディファクス】

## ■ 医療機関は「厳しい状況」、適切に対応

— 福岡厚労相が所信 —

福岡資麿厚生労働相は3月7日、今国会で  
初めて開いた衆院厚生労働委員会で所信を表  
明した。医療・介護・障害福祉分野の物価・  
賃金対応については、「物価高騰などによる  
医療機関の厳しい状況を踏まえ、報酬改定や  
補正予算の効果も含め、実態をよく把握し、  
適切に対応していく」と述べた。

2024年度報酬改定で講じた職員の処遇改善  
措置が最大限活用されるよう、書類の簡素化、  
幅広い周知に引き続き取り組むと説明。処遇  
改善加算のさらなる取得促進に向けた要件の  
弾力化なども図るとした。24年度補正予算に  
盛り込んださらなる賃上げに向けた支援も、  
現場で働く人に行き届くようにすると力を込  
めた。

医療提供体制にも言及した。新たな地域  
医療構想では、「入院の病床の在り方に限ら  
ず、外来や在宅医療、介護との連携までをカ  
バーし、人材確保などの状況も踏まえた医  
療機関の役割分担や連携をさらに推進する」  
とした。

医師偏在対策は、昨年末にまとめた総合的  
な対策パッケージに基づき、地域の実情に応  
じた実効性のある取り組みを推進する、と意  
欲を示した。

マイナ保険証については、スマートフォン

での利用に向けて、今春以降、順次対応を進  
めていくとした。

【メディファクス】

## ■ 肝がん・肝硬変の新規認定大幅増

— 24年度11月時点 —

厚生労働省は3月7日の肝炎対策推進協議  
会(会長=竹原徹郎・大阪大大学院教授)で、  
2024年度の肝がん・重度肝硬変治療研究促進  
事業の実績(暫定値)を報告した。新規患者  
の認定件数は24年11月分までで701件あり、23  
年度の553件をすでに大幅に上回った。

24年度は、月ごとの新規認定件数が23年度  
に比べておおむね倍のペースで推移しており、  
厚労省の担当者は「引き続き利用促進に努め  
たい」との姿勢を示した。

厚労省は24年度から患者への助成要件を緩和。  
高額療養費の限度額を超えた月が「過去  
12カ月で3月目」から助成対象としていたが、  
「過去24カ月で2月目」が対象とした。

24年11月までの患者への助成件数は2975件  
となっている。

【メディファクス】

## ■ 感染性胃腸炎、10.32で「かなり多い」

— 2月17~23日 —

国立感染症研究所は3月7日、感染症週報  
第8週(2月17~23日)を公表した。感染性  
胃腸炎の定点当たり報告数は10.32で、第2週  
以降、7週連続で増えた。過去5年間の同時  
期の平均と比べて「かなり多い」状況だ。

都道府県別では、大分が21.03で最多。次い  
で熊本(19.06)、香川(17.21)となった。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は

1.21で、7週連続で増加した。過去5年間の同時期の平均と比べて「かなり多い」。

このほか▽伝染性紅斑(0.56)▽急性出血性結膜炎(0.03)▽流行性角結膜炎(0.82)▽マイコプラズマ肺炎(0.37) —も、過去5年間の平均と比べて「かなり多い」。

【メディファクス】

## ■ コロナ定点、4.42に減少

— 2月24日～3月2日 —

厚生労働省は3月7日、2025年第9週(2月24日～3月2日)の新型コロナウイルス感染症の発生状況を公表した。全国の定点当たり報告数は4.42で、前週の4.95から減少した。総報告数は2万1790人で、前週から2553人減った。

都道府県別の定点当たり報告数は、佐賀が8.23で最多。次いで愛知(6.62)、長野(6.59)となった。

基幹定点医療機関(全国約500カ所)の届け出に基づく期間中の入院患者は1994人で、前週から40人増加した。 【メディファクス】

## ■ インフル定点、1.89に減少

— 2月24日～3月2日 —

厚生労働省は3月7日、2025年第9週(2月24日～3月2日)のインフルエンザの発生状況を公表した。全国の定点当たり報告数は1.89で、前週の2.21から減少した。総報告数は9302人で、前週から1564人減った。都道府県別の定点当たり報告数は、沖縄が7.61で最多。次いで新潟(4.06)、栃木(3.89)となった。 【メディファクス】

### 【お知らせ】

#### 映画「フロントライン」特別試写会に抽選で医学生450名をご招待

日本医師会では医学生を対象として、映画「フロントライン」の特別試写会を下記の要領で開催することになりました。皆さんの周りの医学生にぜひ、お知らせ願います。

◆日程：4月25日(金)午後6時30分から上映(受付は午後5時30分～)

◆場所：日本医師会館1階大講堂(東京都文京区本駒込2-28-16)

◆対象者：医学生(抽選で450名をご招待)

◆応募締切：4月7日(月)午後11時59分まで

◆申込方法：

①下記QRコードを読み込んで日本医師会LINE公式アカウントを友だち登録(登録済みの方はトーク画面に飛びます)

②応募フォームより必要事項を記入

③応募完了!



※当選者の発表は、LINEの通知をもって代えさせていただきます。

※1回の申し込みで最大2名まで応募可能です。ただし、同行者も医学生に限らせて頂きます。

※当日、受付でLINEの当選通知とともに学生証のご提示をお願いします(LINEの当選通知を削除された方、学生証を忘れられた方はご入場できない場合もございますので、あらかじめご了承ください)。

◆問い合わせ先：日本医師会広報課

E-Mail:[kouhou@po.med.or.jp](mailto:kouhou@po.med.or.jp)